

議事録

会議名	令和4年度第2回京田辺市総合教育会議
日 時	令和4年11月2日（水）午後3時00分
場 所	京田辺市役所議会全員協議会室
出席者	上村市長、山岡教育長、西村教育長職務代理者、藤原教育委員、上村教育委員、伊東教育委員 (事務局) 池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、鈴木企画調整室指導主幹(教育部副部長)、北尾企画調整室指導主幹(教育総務室担当課長)、鈴木企画調整室主査(教育総務室主査)、藤本教育部長、上原教育指導監、片山こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、七五三社会教育課長
審議内容	1 協議事項 京田辺市教育大綱の見直しについて 2 調整事項 (仮称)京田辺市教育振興基本計画の策定について

○議事

1 協議事項 京田辺市教育大綱の見直しについて

市長 もともと期限を設けて教育大綱を定めてきたが、基本的に国としても期間設定を求めるものではないというなかで、今回、教育大綱については期間設定をしないということです。大綱は4年に1度変えるものではなく、京田辺の教育の大きく変わらない方針としておくべきものである。

委員 大綱の内容から考えて、4年という期限を定めずに、必要に応じて検討していくというので良いのではないかと思う。

委員 提案としては賛成する。

市長 基本理念は4年に1度変えるものでもない。ここに目標をどう落とし込んでいくかに注力していかなければならない。

委員 教育大綱は未来に繋がっていくものである。4年に1度ではなく、大きな目で安定したものを基本にし、期間を設定しないことに賛成です。

委員 京田辺市の独自の教育方針というものを掲げた教育大綱だと思うので、目標に向かって市全体で進めていけるようなものとなつたらいいと考えて

おり、期間を設定しないということに賛成です。

教育長 もともと4年は市長任期と合うような形で調整されたと思う。京田辺市として教育の根本をしっかりと定め、ぶれることがないように長期にわたって進めていくべきであろうと思う。京田辺市として方針をもう少し明確にするとか、今後広げていくとかであったり、市長の教育行政の関わりのなかで思われることがあれば、その時にしっかりと総合教育会議のなかで議論していくべきと思う。任期というよりも、その時々に合せた形で、修正していくことが基本だと思うので、市長の提案に賛成である。

市長 期限を設けないということだが、見直しをするかどうかは総合教育会議でしっかりと諮らせていただいて、必要であれば変更していくということで、隨時見直しの形をとっておいて、改めてしっかりと総合教育会議で議論していくということで進めていきたい。それでは、今後、期限を設けないということで進めて行く。

2 調整事項 (仮称)京田辺市教育振興基本計画の策定について

市長 今回のご提案は、本市の教育に関する各施策を(仮称)京田辺市教育振興基本計画として策定して、本市の総合計画と整合性を図るということだが、そもそも総合計画で、いろんなまちづくりを考えて行くなかで、教育ということを明確にして位置付けていくことが、まちづくりについても大事だと思うので、明確化させるということで良いことだと思っている。それと同時に市長部局については、来年度、企画政策部を中心に総合計画のまちづくりプランの中間計画の策定を進めていくといふことになるので、足並みを揃えるということも大変重要だと思う。教育委員会と市長部局が連携しながら、それぞれの計画を作り込んでいくことが望ましいと考えているので、まちづくりプランと整合性をとった形で進めていくことは結構かなと思っている。

委員 教育委員会と市行政は独立している。だからこそ調整の提案となったと思うが、現実的に考えると、京田辺市の学校教育、あるいは子育てそのものは、行政と切り離しては考えられないで、このように調整事項として提案させていただくのは良いと思っている。

市長 子育て世代を中心に多くの方がお住まいいただくということになると、関心事として教育に関する思いは強いと思う。教育委員会と市長部局は

それが独立しているが、市民の思いからすると、不可分である。そのためにまちづくりの中に教育も整合性をとって、市民に見える化していくことは大事であると思うので、進めていただけたとありがたい。

教育長 組織としては独立しているが、総合的に協力して連携していくということは基本である。学校教育であれば教育内容は教育委員会に任せていきたいという部分であるが、社会教育や生涯学習、社会体育の分野でいえば、市を挙げて取組むべきであって、対象についても0歳からご年配の方まで、全ての年代の方の市民が対象になる。ここは協力していくのが当然のことだと思う。本市において組織改編で文化、スポーツについては、市長部局にあるが、学校は文化芸術活動とも密接な関係があるので、常に歩調を合わせる必要があるという考え方で、市の計画と整合を図りながら進めたいと言う考えである。

市長 学校の部活も地域移行となるとより調整、連携していかないといけない。

教育長 中学校の部活の地域移行はシームレスになってしまう。今まで別でやっていたものを、一体に考えていくという構想である。中学校を卒業したら市に戻すというような問題ではないので、お互いにしっかりと考えていくべきものだと思う。

委員 近畿市町村教育委員会研修大会で出ていたが、市行政の部分と教育委員会の部分は独立しているが、縦割りではなく面で見ていく部分が多いと思う。教育、福祉で整合性が取れた体系的目標があることが大事だと思っている。

教育長 策定は努力義務になっているが、全国で策定率が82.9%である。京田辺市教育委員会が作業しなかったというよりも、今の「教育の方針」がしっかりと作り込んであるので、基本計画を策定する重要性がそんなに大きくなかった。十分耐えられるものであったということだが、ただ、文化、スポーツが市長部局に行ったことによって欠落する形になったのが大きな要因である。ここについては協働でしっかりと進めていかなければならない。

委員 教育、福祉は切り離せない。いろんな社会状況・問題が教育に影響し、子ども達に大きな影響を与えている。そういうところで協力しあって、足並みを揃えないと、そういった問題も解決していかないと凄く感じるので、総合計画と基本計画というのは、協力しあってやっていくというのが不可欠だと常日頃から感じている。

委員 最近の社会情勢を見ていると、こどもを育てるような社会情勢になっていない。こどもが未来に向けて輝けるような社会ではないと不安要素が多いと感じているので、そういう意味でも教育分野に関してはしっかりとるものを持っていなければならぬ。それを京田辺市としてこどもをしっかりと育てていくという部分では、こういった形で教育振興基本計画を立て、様々な部局で協力をしあいながら、そこに住むこどもたちをみんなで成長させていくということで、計画を進めていっていただけたら良いなと感じている。

市長 家庭の状況の変化によってお子さんの状況が激変するというのは、学校現場が的確につかみやすいかもしれない。例えばネグレクトが疑われる親御さんであっても、実はその親御さんにはさらに別の問題があつて、もしかするとご両親の介護が関係していて、こどもにまで目が向かなくなったりだとか、その子の事象だけではなく、大本の現象をどう解決してこの子の育ちにつなげていくか、複雑な社会構成になってきているので、ここは是非とも私自身の思いもあるので、まちづくりプランと一緒にしていただきとありがたいなと思っている。是非、今後そのように進めていきたいと思う。

本日、協議、調整させていただいた内容については、市長部局、教育委員会それぞれがその内容を尊重して、それぞれにおいて事務を進めていきたいと思う。